

住吉大社 概要と歴史

住吉大社は、日本で最も古い神社の一つである。日本の伝統的な年代記によると、この神社は夫の死後に本州西部を治めていた伝説的な女帝、神功皇后によって 211 年に創設された。神功皇后は、住吉三神と呼ばれる 3 人の海の神を祀った。神話では、日本列島を創ったイザナギの神が、冥界への旅の後、海で身を清めた時に三神は誕生したとされている。一説には、三神は、航海の際に一般的に使われたオリオン座の 3 つの明るい星であるとも言われている。神功皇后が亡くなった後、住吉大社では三神と一緒に神として祀られた。

住吉大社はもともと大阪湾の岸边から数メートルのところに建てられていたが、自然の沈泥や埋め立てによって海岸線は西へ約 7km 移動した。7 世紀から 9 世紀にかけて、最寄りの難波津は、中国との貿易や外交の出発点となっていた。また、難波は大阪と日本の北部を結ぶ国内の交易路の始点でもあり終点でもあった。

住吉大社本宮は、それぞれの守護神を祀る 4 つのお堂が、湾に向かって西向きに建っている。これは、奈良時代（710 年～794 年）に中国から導入された地相学の法則に基づいて南や東を向いている多くの神社とは異なるものだ。かつて、本宮は 20 年ごとに建て替えられていたが、この慣行は 16 世紀の内乱で中断し、19 世紀初頭には完全になくなった。

「すみよっさん」と大阪の人が親しみを込めて呼ぶ住吉神社は、昔話や 11 世紀の源氏物語から最近の文学作品まで、多くの日本の物語に登場する神社である。境内には、ノーベル賞受賞作家・川端康成

（1899-1972）の記念碑があり、彼の短編小説「反橋」（1948 年）の舞台となったのもこの神社である。

1800 年以上もの間、住吉大社は大阪の海の玄関口とその先にある奈良や京都の古都を守ってきた。その信者は、統治者や歌人、船乗りや商人など、さまざまな職業や地位の人々に及んでいる。毎年 1 月の初詣には 200 万人が訪れる。真夏の「住吉祭」は、神輿が練り歩く大阪でも有数の祭りだ。また、6 月の田植え、初秋のお月見などの行事では、音楽や踊り、和歌の朗読などが行われ、多くの人で賑わう。